

巻頭言

「月が見ている」

“The Moon is Looking”

執行役員
開発本部
建機第二開発センタ所長
長谷川 信 樹
N. Hasegawa



2006 年に入りこれまで準備してきた排気ガス規制対応の車両が順次量産化されている。多くの機種があり、大変に輻輳した開発であったが、開発部門だけでなく、騒音・振動などの分野で力を発揮した研究部門、折からの増産のなかで試作にも精を出した製造部門、スムーズな市場導入に知恵を絞った営業部門、プロダクトサポート部門など、コマツの全部門が連携をとり総合力でこれにあたってきた。作りこみの過程ではさまざまな課題があったが、エンジン、トランスミッション、アクスル、油圧機器、それらを制御する電子コントローラなど、コマツの独自のコンポーネント技術を融合し車両全体として最適化を図ることによってハードルをクリアした。さらに車両システムの上位に位置する KOMTRAX, VHMS などの iT 機器についても積極的に搭載を行った。これらの車両は規制対象国の日、米、欧を始め、世界各国へ順次導入されていく。

我々の技術は昨日今日できたものではなく、顧客とコマツが機械の稼働現場で起こることを真摯に見つめ、何十年という改良を積み重ねてきたものの上に成り立っている。例えばダンプトラックの HD785 は今回 7 型を世の中に出したが、昭和 50 年代に 1 型を出してから 20 年以上を経ており、この間の改良秘話には枚挙に暇がない。その他のどの機種をとっても逸話に満ち満ちているが、これらの活動を通じて積み重ねてきた品質と信頼性をさらに高めていくよう今後も努力していかなければならない。

開発の過程では思わぬ不具合も出る。この場合もちろん技術的解決策を短期、長期に考え創出するが、コマツではこれに加えてプロセスについても細かく議論する。なぜ不具合が生じたのかプロセスを解析し再発を防止するためにはどうすべきかを議論するのが伝統である。今回のように輻輳した開発では、このようなプロセスの管理が重要であり、今回学んだ種々の工夫は次にくる TIER4 排気ガス規制対応に向けて大変有益になると確信している。

この度コマツが時が経ても変わらぬ良いこととして抽出した考え方や行動様式がコマツウェイとしてまとめられた。開発編には開発現場でとくに大切に思っていて欲しいことが明文化されている。これらのプロセスや考え方は海外の開発拠点にも適用されていき、今後各拠点からもコマツウェイの息吹の掛かった車両が開発され市場に導入されていくと思う。

コマツの強みであるコンポーネントと制御の技術、iT の技術は今後も重要であると考えている。建設・鉱山の世界市場は好況であり、多くの顧客が機械を待っている状況であるが、市場が好況であれば参入してくる企業も増えてくる。強みとと思っていることが却って弱みになることもあり得るので、あぐらを掻くことなく、井の中の蛙となることなく、外を見て我を振り返り、数多くのチャレンジをし、それを確実なものに成熟させて市場に出していきたいと思う。

人類が存在するずっと前から、月は顔をそむけずに地球をじっと眺めている。20世紀以降産業が急激に発展した結果、現在地球規模で起きているエネルギーや環境の問題を月はあざ笑っているかもしれない。我々がこれから乗り越えていくべき課題はそういう見地からは明確であると思う。そのゴールに向かってボルト一本、クランプ一つから思いを馳せる技術者の姿なら月は微笑んでくれるだろう。世界の各所でコマツの製品が作られ使用されている。源流を司る開発部隊は、製品はもちろんのこと、部隊を構成する一人ひとりの技術者自身の品質と信頼性もさらに高いレベルにもっていくことが大切なことと思う。

PS：太陽はあこがれの存在だが、コメントをいただくなら現場に近い月のほうがよい。